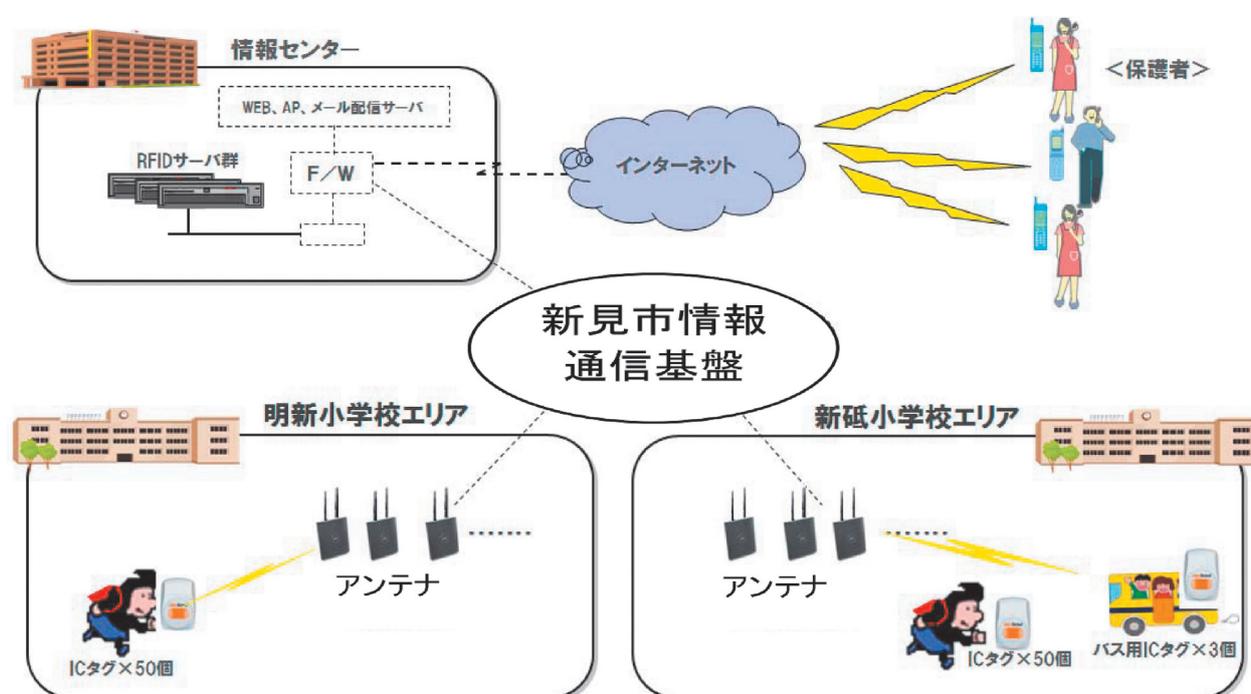


## 2.1.6 スクールネット事業(岡山県新見市)

### 【概要】

「子ども見守りサービス」はお子様の安全を守る仕組みとして、RF-IDという次世代認識技術と、地域密着型企业であるケーブルテレビ局のインフラを融合させたサービスです。お子様に持っていただく電子タグ（アクティブタグ）からは定期的に弱い電波が出ており、この電波を蕨市内のケーブルテレビ用架線に多数取り付けられている「見守り基地局」でキャッチすることにより、電子タグを持っているお子様の位置を特定し、位置表示機能とお知らせ機能の二つのサービスを提供します。

【平成18年度 地域児童見守りシステムモデル事業】



### 【コラム】

このシステムで実現する機能を記します。

- ① 登下校時確認
  - ・校門のタグ読み取り装置により、通過情報を保護者にメール送信。
  - ・携帯電話やパソコン、告知放送端末にて情報提供
- ② 情報提供
  - 不審者情報等を保護者等にメール送信。
- ③ 状態把握
  - 通学路に設置したタグ読み取り装置により保護者の携帯電話や学校のパソコンにおいて地図上に表示

④ 危険通報

電子タグの緊急ボタンを押すことによって、ブザー音と共に信号を出し、保護者や学校等の携帯電話やパソコンに地図を添付したメールを送信、告知放送端末による音声通知。



⑤ その他(スクールバス運行状況連絡)

タグ読み取り装置により、スクールバスがバス停を通過したことを、保護者等にメール送信、告知放送端末による音声通知。

次に、このシステムで得られた成果を記します。

① システム面

今回、構築した新見市地域児童見守りシステムの大きな特徴は、アクティブタグシステムとして一般的な近距離型のタイプと、近年注目されている長距離型(WiFi無線LAN方式)のシステムを、1種類のタグで併用しているところにあります。

他の見守りシステムではあまり使われていないWiFi無線LAN方式のタグシステムを採用することにより、以下のことを実現しています。

1. 半径100~200mという広い検知範囲を生かして、児童がシステムをまったく意識することなく検知することを可能としています。(タグをリーダーにかざしたり、アンテナの付近を通るなどの運用がまったく必要ありません。)
2. 広い検知範囲を生かして、道路を通過するバスの検知を可能としています(近距離型の場合、バス停にアンテナを設置して、バスを寄せて停止するなどの運用が必要です)。

このように、長距離型のアンテナを採用することで、多くのことを実現可能としたが、反面、検知範囲が広すぎるために、検知場所の詳細な特定や、特定の道路の通過を検知するなど、より細かく検知場所を限定したい場合にはデメリットとなることが分かりました。

## ② 運用面

新見市では、今後、更なる少子高齢化に伴い、新見市内の多くの学校において、スクールバス通学を含んだ遠距離通学児童の割合が増加することが見込まれ、また、通学路の安全を守る一般住民のボランティア活動も低下していくと想定されます。

このような状況において、最も効率的で、必要十分な安心・安全なまちづくり対策を検討していく上で、この事業は有用であったと考えています。

[事業費(うち、国からの補助額・委託額等)]

8,483万円(総務省、地域ICT利活用モデル構築事業)

(問い合わせ先)

岡山県新見市総務企画部情報政策課

電話:0867-72-6115

e-mail:joho@city.niimi.lg.jp